研 究 者：鈴木志帆美（所属：神奈川歯科大学　国際医療ボランティア研究会）
平田　幸夫（所属：神奈川歯科大学　社会歯科学講座歯科医療社会学分野教授）

研究題目：タイ・ベトナムスタディーツアー

目　的：

世界には様々な歯科保健制度があり，それらは各国の文化・歴史的背景・宗教・政策などの上に成り立つ。神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会では第６回目となる今回のスタディーツアーでは，ベトナム社会主義共和国，タイ王国での病院，大学，技工所などの見学を通じてこれらの相違を学び，問題発見・解決していくことで，今後の自国の医療，国際医療保健を考えるきっかけとなることを目的としている。

対象および方法：

対象：歯科学生　３名（神奈川歯科大学　国際医療ボランティア研究会）
　　引率教員　１名（神奈川歯科大学歯科医療社会学分野）
日程：2012 年３月３日（土）～３月９日（金）
場所：
　ベトナム社会主義共和国（ホーチミン・フエ）
　タイ王国（バンコク・サラヤ）
内容：
・ベトナム社会主義共和国内
　フエ医科大学大学にて　大学内・歯学部付属病院見学，学生学術交流会開催
　フエ中央病院の見学
　国立歯科口腔科病院（ホーチミン市内）の見学
　CETEC（ホーチミン市内　歯科技工所）の見学
　VIET QUOC（ホーチミン市内　歯科技工所）の見学
・タイ王国
　マヒドン大学歯学部付属病院，サラヤキャンパスの見学

結果および考察：

第６回目となる神奈川歯大学国際医療ボランティア研究会主催のスタディーツアーは，３月３日～９日の日程で行い，６日間のうち５日間ベトナムの首都ホーチミンとフエ市，１日間タイの首都バンコク，ナコンパトム県サラヤに訪問した。

・技工所見学

ベトナム・ホーチミン市内にある CETEC，VIET QUOC という２つの技工所に訪問した。後者の CEO は日本人の方である。ベトナムには歯科技工士の資格はなく，労働者のうち技工士学校を卒業した人は１人のみで，ほとんどの人が技工所で技術を習得し働いていた。VIET QUOC



補助も診療もすべて歯科学生（フエ医科大学）



学術交流会

ではCAD／CAMを用いており，実際に見させていただいた。

・病院見学

ホーチミン市内にある国立歯科口腔病院，フエ市内にあるフエ中央病院に訪れた。国立歯科口腔病院は改築されたばかりで受付から診療室まですべて新しく，ユニットは半個室型で綺麗に整備されており，オステムインプラントを導入していた。

フエ中央病院では口腔外科と歯科病棟を見学した。医科と併設されていることもあるが午前中からとても多くの患者が待っていた。この病院はJICAの支援のもと建てられた病院であり，JICAにより寄与されたユニットがたくさんある歯科の病院風景は，日本との相違はさほどないように感じた。口腔外科では口唇口蓋裂など日本ではまれな症例を直接見させていただいた。

・大学見学

ベトナムではフエにあるフエ医科大学を訪問した。フエ医科大学の歯科学生は1，2年が座学，3年はモデル実習，フエ医科大学では4〜6年生が実際に患者を治療し，国家試験も患者さんを実際に治療して行われる。学術交流会として日本の歯科教育についての発表を行った。

タイではマヒドン大学歯学部付属病院，サラヤキャンパス，サラヤキャンパスに併設された病院を訪問した。マヒドンの歯学部生は１年時にサラヤキャンパスで教養を学び，2，３年生は座学，4，５年生は実際に患者を診療する。学生が患者を診る際，補助はなくすべて１人で行うそうだ。ベトナム同様，学生が治療する場合はドクターよりも診療費が安い。付属病院，サラヤキャンパスともにとても広く綺麗であった。

タイもベトナムも日本のような整備された保険制度があるわけではなく，都市部と地方部では医療格差がある。タイではその対策のひとつとして大学卒業後3〜5年地方に赴任する義務がある。だが，地方部では無歯科医村が多く，歯科技工士が治療を行っていることが少なくない。ベトナムでは，大学卒業後５年後歯科医院の開業が許されるだけで地方に行く決まりは特にない。ただ，フエ医科大学のほとんどの先生が，大学に勤めながら自分で歯科医院を開業していないと自分の生活が成り立たないと言っていた。

今回のスタディーツアーはタイでもベトナムでも都市部を見学した。今後は地方に行き，都市部との医療格差をすこしでも埋められるようなお手伝いをしていきたいと感じた。

成果発表：（予定を含めて口頭発表，学術雑誌など）

歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）総会での口頭発表

神奈川歯科大学広報原稿投稿

稲岡祭（神奈川歯科大学学園祭）展示発表

神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会事業報告書掲載・発行

神奈川歯科大学学会　発表